

言い訳など口にされず、常に前を向く姿が印象的でした

国際医療福祉大学院 作業療法士学分野

M1 大場 和美

「ケアニン」のお話の内容にとっても感動し教室で涙を拭きながらお話をお聞きしました。

現在は障がい者支援の職場にいますが、以前、高齢者施設で働いていました。「人生の最後になるであろう場所を、楽しく思っただけのようにしたい」という気持ちがいっぱいで働いていましたが、介護ビジネスの現実には耐えられず退職しました。

「もう少し頑張れたら良かったな」といつも後悔しています。もし「ケアニン」を見ていたら、語り合える「仲間」がいたら、違っていただかかもしれません。

介護をビジネスとしか捉えていない社長も、気持ちが少し変わるかもしれません。

福祉の前線にいるような人々は、人前に出ることや派手なことが苦手な人が多いように感じます。自分たちでは、なかなか発信できないかもしれません。

この世界に興味を持ってくださって、映画にしてくださって本当にありがとうございました。

そして「誰もやっていないことに挑戦する」山国さんのお話を聞いて「自分は変に大人になってしまったなあ」と感じました。自分の興味あること、関心があることを突き進んでいく山国さんが、とても格好良いと感じます。

「ガレキとラジオ」について、講義後に調べてみました。是非については簡単に言えることではないと思いますので控えますが、山国さんが全く言い訳をされていないこと、とにかく速やかに上映中止の判断をされ、再開も修正されたもので行われていることなどを知りました。

講義中も全く言い訳など口にされず、言いたいこともたくさんおありだろうに、常に前を向く姿がとても印象的でした。

自分も、変に大人にならずに「やりたいことをやる」「つらいことがあってもまた立ち上がる」ことができるように、頑張りたいと思いました。

山国さんに勇気をいただきました。ありがとうございました。